

内山倫史教授定年退職記念号によせて

経営学部長/経済・経営学会会長 岸 川 典 昭

内山倫史教授は、2004年3月末日をもって永年教鞭を取られてきた経営学部(旧商学部)国際経営学科を定年退職されることになりました。ここに長年にわたる名城大学および経営学部(旧商学部)に対する先生の御貢献に感謝の意を表する次第です。

先生は1958年3月名古屋大学大学院文学研究科修士課程を修了された後、岐阜市立岐阜女子短期大学英文科助手・専任講師、信州大学文理学部専任講師・助教授を経て、1982年6月に名城大学商学部に教授として着任されました。以来教育と研究に情熱を注がれ大学ならびに学部の発展に寄与されてきました。

研究面では、シェイクスピアの研究に一貫して専心され、シェイクスピアの言葉の技法、特にイメジャリー(心象)を中心に研究され、詩人が描こうとする対象をより明確にすることにより、より美しく装飾するために頼る一つの具体的な例証、例えば、シェイクスピアの初期の劇から後期の劇にいたる語彙、地口、奇想法、比喩等の修辭的技巧が劇の雰囲気や醸し出す方法の特徴などを解明することを研究テーマとされてこられました。この集大成の1つが1982年に出版された著書『シェイクスピアの言葉——喜劇を中心として——』です。日本英文学会、日本シェイクスピア協会等でも活躍されておられますが、旺盛な研究活動は御定年を迎えられるまで変わらず、引き続きシェイクスピアについて深く研究され、成果を随時発表されている姿勢は、研究者として後輩を勇気づけるものと思っております。

教育面では、主に英語教育・LL教育を担当され、シェイクスピアの研究を通じて英米文学の面白さや、英語を通じて英語国民の文化や伝統、風土、物の見方や感じ方に対する理解などをやさしく教えられ、多くの優位な人材を育てられてきました。

行政面では、図書館運営委員、LL教室運営委員、総合研究所委員等を歴任され、さらに1994年4月から2年間学科長(教養学科)の要職につかれるなど、名城大学の発展のために大いに貢献されてきました。

このような内山先生の研究、教育、行政に対する長年のご苦労と御功績に心から感謝し、定年退職記念号を刊行し、先生に捧げたいと思います。先生は謙虚な方であると同時に非常に責任感の強い方であり、教育でも、行政でも常に几帳面に実行されており、学部では、常に後輩教員に対して暖かく接しておられ、教育、研究の面においても有意義な助言をおあたえになるなど、先生のご恩を受けた教員は私を含めて数多くに上っております。今後はなにとぞ健康に十分留意されて、これまで以上にご活躍されることを祈念いたしまして、定年退職記念号によせる言葉といたしたいと思います。